

富医ニュース

No.564 平成30年12月1日

一般社団法人 富田林医師会

会長 宮田 重樹

〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38

TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858

E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

調 整 日

11月分 12月6日(木)
PM3:00まで

12月分 1月6日(木)
PM3:00まで

12月の予定

3日(月)・会長副会長連絡会議

6日(木)・学術講演会

・調整日

7日(金)・耳鼻科医会

14日(金)・理事会

21日(金)・広報調査委員会

25日(火)・訪問看護ステーション
運営委員会(予定)

・広報調査委員会

(校正)

28日(金)・事務所仕事納め

1月

7日(月)・事務所仕事初め



第9回 とんだばやし認知症市民フォーラム

11月17日、すばるホール4階銀河の間で、「第9回とんだばやし認知症フォーラム～広げよう認知症予防、活用しよう在宅医療～」が開催されました。今年は晴天に恵まれ、377名の市民の参加があり、開会前から会場は大にぎわい! もの忘れ簡易チェックテスト、ロコモ度テスト、血糖・血圧測定。糖尿病食・介護食試食、服薬ゼリー体験、健康・介護・栄養相談、脳トレ、パネル展示が行われ、各ブースには長い行列ができていました。

14時から認知症フォーラムが開会。多田市長の挨拶に続き、MEET富田林コンクール(認知症に関連する本を読んだ小・中学生が書いた感想文)の優秀作の表彰がありました。その後、宋 連玉先生(歯科医師会)、遠山典男先生(薬剤師会)、宮田会長、仲谷理事が登壇して「今日からできる!認知症予防のポイント」をテーマにパネルディスカッションを行いました。それぞれの立場から基本的、具体的な認知症対策を説明したのち、宮田会長が「デュアルタスク」を実演、会場の皆さんにも楽しみながら学んでいただきました。

次に坂口理事と富田林医師会訪問看護ステーション増本さんが登壇、「富田林市における在宅医療について」～認知症になっても安心して暮らすためには～とのテーマで講演があり、在宅医療と看護の仕組みについて、具体例を交えて在宅医療と訪問看護への理解が深まるお話がありました。

最後に小畠副会長からのお言葉で閉会となりました。

医師会あすか会(平成30年度)

平成30年度医師会あすか会が、11月10日(土)午後4時からスイスホテル南海大阪で松原市医師会主催で開催されました。松原市医師会の岡田安司先生の司会のもと、松原市医師会会長上野憲司先生の挨拶から始まりました。今年の研修会は二部構成で、第一部は大阪府医師会会長茂松茂人先生に基調講演をしていただきました。

第二部はシンポジウム形式で各医師会の代表が「地域包括ケアシステム 広域協力体制づくりに向けて」というテーマで討論が行われました。各医師会の地域包括ケアシステムの取り組みの現状と課題を各先生方から説明していただきました。在宅医療のシステムをこれから構築しようとする地域と、在宅医療システムがすでに出来上がってきている地域があり、あすか会を通じて各地域間で連携し、課題に取り込むことが期待されました。

18時からの懇親会では、再び松原市医師会岡田安司先生の司会で、会長の上野憲司先生のあいさつに始まり、次いで重松茂人大阪府医師会会長のあいさつ、中尾正俊大阪府医師会副会長の乾杯で食事が始まりました。その後、各医師会の参加者の自己紹介があり、次年度の当番である羽曳野市医師会会長調子和則先生のあいさつ、松原市医師会副会長 妻谷憲一先生の閉会挨拶で散会となりました。

近隣医師会の先生方と楽しく親睦をはかることができ、今後の診療にあたり円滑に助け合い連携していくことができる雰囲気でした。年一回ではありますが有意義な会でありました。

平成30年 11月定例理事会

日 時 平成30年11月9日(金)
13:30より
場 所 医師会 特別会議室

会長挨拶

報告事項

- 1) 「がん登録等の推進に関する法律」における診療所の新規指定申請について
- 2) 平成30年度に実施される中医協関係の調査について
- 3) 平成30年医師の届出について →提出義務あり

協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 第43回大阪府医師会社会保険指導講習会(伝達講習会)の開催について
- 3) 大規模災害図上訓練の開催について
- 4) MMRワクチン集団接種について(藤岡雅司理事)
- 5) 富田林医師会職員就業規則の改定について
(宮田会長)
- 6) 新年会1月26日(土)18時~コンラッド大阪にて
- 7) 休日診療所、来年ゴールデンウィークの出務について
(南理事)

富田林医師会学術講習会

日時 2018年12月6日(木) 13:45~15:00

場所 富田林医師会 研修室

【特別講演】 14:00~15:00

座長 とねクリニック 刀襦 央朗 先生

『診断治療から地域連携

~認知症診療における医療機関の役割~』

演者 橋本市民病院

脳神経内科 部長 大饗 義仁 先生

現在高齢化の社会問題として、消費者被害、高齢者の交通事故、行方不明者、高齢者虐待などさまざま取り上げられていますが、これら高齢化の社会問題は、大きく認知症と連携しています。そのため、こういった社会問題への対策は、認知症の対策をすることが重要となります。その中でも重要なのは、かかりつけ医の役割

です。かかりつけ医では、早期発見、早期診断できるように専門の医療機関との連携が重要です。診断された後も、介護との連携やBPSDが出現した時の対応、終末期の対応などかかりつけ医での役割が大きく、その都度専門の医療機関との連携も必要になってきます。また、認知症への対策は、医療機関同士の連携だけでなく、介護、行政、地域の力が必要です。認知症の方をこのように円で支える街づくりは、認知症の方がその人らしく最後まで暮らせる街づくりとすることができますし、このように支え合える街づくりというのは、誰もが暮らしやすい街づくりと一言で言えると思います。

※本会は生涯教育制度「1単位」取得カリキュラムコード「12・地域医療」「29・認知能の障害」を申請中です。

河南町で三種混合ワクチンの助成が開始

10月1日から河南町では、百日せきの予防を目的に、就学前年の幼児と二種混合(DT)ワクチン2期末接種者を対象に、三種混合(DPT)ワクチンを任意接種として接種する際の費用助成を開始しました。全国の自治体では初めての取り組みです。助成回数は共に1回ずつで、助成費用は1回当たり上限5,000円です。

百日咳は今年1月から全数報告になり、ワクチン未接種の生後6か月未満の乳児と、追加接種(4回目)から数年を経た学童期に患者が集積していました。患者数は5歳頃から増加し、9歳にピークがありました。

そこで、8月に日本小児科学会の推奨する予防接種スケジュールが改定され、就学前年のDPT追加接種とDTをDPTに代えての追加接種が加わりました。河南町の新しい施策は日本小児科学会の推奨スケジュールの改定を受けての対応です。

ちなみに、就学前年の追加接種は、4月1日に遡って助成されます。一方、DT二期対象者の助成は10月1日以降に接種した分に限られます。なお現在、国内では三種混合「トリビック(r)」だけが5回目以降の追加接種として使用が承認されています。5回目の接種が承認されていない四種混合ワクチンで接種しても助成されませんのでご注意ください。(感染症対策委員会)



専門医より一言



大阪南医療センター 乳腺外科
医長 田中 覚 先生

乳癌は女性の悪性腫瘍の罹患率がトップで、今後も増加すると考えられています。これまでの特徴は、40歳代にピークがありましたが、近年では60歳代も上昇してきており、二峰性の分布となっています。

乳癌の初期治療は、外科手術、薬物治療や放射線治療といった集学的治療が必要です。特に、薬物治療については、サブタイプという概念が治療選択の上で重要で、サブタイプに基づいて腫瘍量(ステージ)に応じて薬物治療を選択していきます。一方、乳癌は再発してしまうと根治が難しくなります。再発乳癌の治療は多岐に渡り、さらに治療期間も長くなるため、個々の患者さまに応じてきめ細やかなフォローが必要となります。

一方、全乳癌のうち、5~10%は遺伝性乳癌とされており、その中でもBRCA1/2遺伝子に変異が認められる場合は、卵巣癌なども併発しやすく、遺伝性乳癌卵巣癌症候群(Hereditary Breast and Ovarian Cancer: HBOC)と呼ばれています。遺伝カウンセリングや遺伝子検査、さらに癌検診や予防切除など、HBOCに対する診療体制は、我が国ではまだ不十分な現状であり整備が急がれます。

乳癌は比較的治りやすい癌のひとつですが、やはり早期発見が大切です。当科では、初診時にマンモグラフィおよびエコー検査を行い、迅速かつ正確な診断を行います。また、治療が必要な患者さまに対しては、質の高いチーム医療を提供することを心がけています。なお、当院へのご紹介につきましては、診療情報提供書を作成のうえ地域医療連携室を通してご予約いただければと思います。ご予約がない場合でも「紹介状お持ちの方専用窓口」にて初診を受け付けております。さらに、当科では紹介状を持参されなくても初診を受け付けておりますので、乳癌に限らず乳房に関することは何でもお気軽にご相談下さい。南河内地区の地域医療に少しでもお役に立てればと思います。

平成30年 三師会懇談会

地域包括ケアシステムを推進するうえで欠くことができないのが多職種連携です。現在の三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)には、顔の見える良い関係が歴代の先生方のお力で出来上がっています。おかげで、認知症フォーラム、富田林市医療介護専門職研修会、富田林市包括ケア会議等でスムーズな運営が行われています。

顔の見える関係作りの一環として三師会懇談会が11月24日(土)に門前屋で行われました。医師会からは、堀野、宮田、児島、赤松、前田、山本、森井(敬称略)の7名の先生が参加して下さいました。歯科医師会は10名、薬剤師会からは5名参加されました。

今年度当番幹事の大橋薬剤師会会長の挨拶で始まり、参加者の簡単な自己紹介の後、宴会が和やかに始まりました。アルコールが程よくまわると気軽にお互いの話をされて懇親の場らしくなりました。

来年11月30日(土)に医師会が当番幹事で三師会懇談会が予定されています。多くの先生方が参加して下さいさうお願い致します。

* 鉄道トリビア ~阪急神戸線その1~

大阪梅田と神戸三宮を結ぶ阪急神戸線は、わずか30分で阪神間を結ぶ速さとともに、関西随一のお洒落な路線としても名を馳せています。しかし神戸線が今のようなイメージを持つに至るまでには阪急の苦心と努力がありました。第一回はそのお洒落な沿線イメージのルーツについてのお話です。

阪神間に初めて鉄道が開通したのは明治5年、国鉄によってでした。これは大阪と神戸という都市を結ぶ目的であったため、沿線の事情は勘案されず、途中駅は西宮のみでした。次に明治38年、阪神電鉄が開業します。阪神は国鉄よりも海側の四国街道沿いの集落をきめ細やかに結び、地域密着型の鉄道として発展しました。そして大正9年、最後に開通したのが阪急です。すでに2つの路線が開通している阪神間で路線を通せる場所は集落のない、山側の丘陵地帯しか残されていませんでした。人が住んでいない場所を通したわけですから当然乗客は少なく、苦勞します。これを逆手にとり、阪急は新聞に次のような広告を出します。

「新しくできた神戸行き急行電車綺麗で早うてガラア

キ眺めの素敵によい涼しい電車」

この自虐ネタが、混雑のひどかった阪神や国鉄の利用客の目に止まり、少しずつ利用客が増えるようになります。

次に阪急は何もないのを逆手にとって、お得意の沿線開発事業に着手します。宝塚線界限において日本で最初に郊外住宅地



阪神間直通線開通を告げる新聞広告

開発を行ったノウハウをいかし、阪神間の高台・六甲山系の麓に自然豊かな住宅地を提案。煤煙などの環境悪化が問題となりつつあった、大阪市内に住む資産家たちがこぞって阪急沿線に邸宅を建てて引っ越していきました。さらに阪急は通学客の増加、および沿線のイメージアップを狙い、神戸線および今津線沿線への学校の誘致を積極的に図ります。神戸市内の学校地を相場よりも高い値段で買い取り、それを移転先の校舎の建設費用に充ててもらおうという手法により、小林聖心女子学院、関西学院大学、神戸女学院を次々と神戸市内から西宮地区に誘致することに成功します。こうして自然豊かな高級住宅地・文教地区として神戸線沿線のイメージが定着していったのです。

今回はその速さの源である、路線の選定にまつわるトリビアのなかから、神戸線の支線である伊丹線にまつわるトリビアをご紹介します。ではまた。

(zenkun)

TMG 結果

平成30年11月11日(日) 聖丘カントリークラブ(西→中コース)で平成最後のTMG会が開催されました。14名の先生方にご参加いただき誠にありがとうございました。(結果)

優勝 出口 隆史 先生(PL病院)
 ベスグロ 中嶋 靖潤 先生(四天王寺和らぎ苑)
 でした。

今回は、2019年5月19日(日) 聖丘カントリークラブで予定しております。ご参加よろしくお願いたします。

11月行事・会合

- 5日(月)・会長副会長連絡会議
- 8日(木)・学術講演会
・調整日
- 9日(金)・理事会
- 10日(土)・あすか会
- 14日(水)・救急災害医療委員会
- 15日(木)・学校医部会研修会
- 17日(土)・市民フォーラム
- 20日(火)・広報調査委員会
- 26日(月)・訪問看護ステーション運営委員会
・広報調査委員会(校正)
- 27日(火)・感染症対策委員会
・休日診療委員会



- 会員数(12月1日現在) 189名
 A会員 97名 B会員 92名
- 入会 なし
- 退会 なし
- 異動
 小川 智永 B→A2B (小川外科)

広報調査委員会				
委員長	齊藤 謙介	副委員長	森井 秀樹	
委員	青山 賢治	天城 完二	植村 匡志	
	江村 俊也	奥野 敦史	尾多賀雅哉	
	遠山 佳樹	中村 元	藤岡 洋	
	山本 善哉	山村 友良		